

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、認定基本計画において「また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町(まち)」をコンセプトとし、目標として「歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)」、「点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)」、「あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)」を、目標指標として「文化施設等(5施設)利用者数」、「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」、「中心市街地における1階空き店舗数」、「中心市街地における居住人口(社会増減数)」を掲げている。

令和6年度は、「伊丹まちなかバルの開催」「伊丹郷町屋台村の開催」「まちなか大規模イベントの開催」などの主要事業を始めとした各種事業を実施してきたことにより、中心市街地のにぎわい創出が図られている。特に本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」も8月に開催し、今計画期間内では最多となる7万人が来場され、中心市街地のにぎわい創出や流動人口の増加に寄与した。また、中心市街地のほぼ中心に位置する三軒寺前広場では、昨年よりイベント数は減少したものの通年に渡って、本やダンス・スポーツ・国際文化などをテーマとした各種イベントやこども向けイベント、官公庁主導の周知啓発イベント等、多種多様なイベントが開催され、イベント等ソフト事業による中心市街地全体の賑わい創出を十分に図ることができた。

また、「市立伊丹ミュージアム」や「図書館」などの文化施設等(5施設)の利用者数については、昨年より大幅に増加した。主な要因としては、市立伊丹ミュージアムにおいて集客性の高い展覧会を開催し観覧者数が伸びたことに加え、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」の開催数が昨年の60回から106回と大幅に増え、利用者が増加したことが考えられる。

一方で、中心市街地の空き店舗数については、創業支援事業等を実施し1階の空き店舗数は6店舗減少したものの、全体としては増加している。また、中心市街地における居住人口についても、市内全体の人口減少に合わせて減少しており、空き店舗とともに継続的な課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日:毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	14,828	14,940	14,926	14,790		
人口増減数	▲65	112	▲14	▲136		
自然増減数	9	▲30	▲13	▲84		
社会増減数	▲74	142	▲1	▲52		

転入者数	527	697	603	535		
------	-----	-----	-----	-----	--	--

2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

本計画の折り返しとなる3年目であった令和6年度は、ソフト事業を中心に各事業概ね予定通りに進捗している。

当協議会においては、引き続き「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」、「鑑賞 de 寄っトク！itami」等のイベントを実施し、「伊丹まちなかバル」を春と秋の2回開催することが出来た。特に秋の「伊丹まちなかバル」においては、従来の土曜日1日のみの開催から平日も含めた5日間の開催に変更したことにより、イベント実施日だけではなく恒常的にぎわい創出へと繋げることができた。

また、市立伊丹ミュージアムにおいて開催されている「郷町〇店」では、開催数が昨年から大幅に増えており、文化施設と中心市街地内の商店等との連携も順調に進んでいると見受けられる。

それらのことも含め、本計画の目標指標である「文化施設等(5施設)利用者数」や「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」においては、今計画期間内では最多の数字となっており、中心市街地のにぎわい創出が図られたことは評価できる。

一方で、中心市街地の居住人口は減少しており、中心市街地における空き店舗も、目標指標である1階の空き店舗は減少したものの全体としては増加に転じている。一定の新規出店が続いている状況ではあるため、引き続き事業者・商工会議所・まちづくり会社・行政等による連携の上、今後更なる中心市街地活性化のための取り組みを推進されたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
歴史・文化・芸術を身近に感じ、何度も訪れたい郷町(まち)	文化施設等(5施設)利用者数	875,344 人 (R1)	926,600 人 (R8)	812,447 人 (R6)	C	A	A
	中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口(4 エリア合計)	168,064 人 (R1)	167,814 人 (R8)	111,775 人 (R6)	C	A	C
点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)	中心市街地における 1 階空き店舗数	65 店舗 (R1)	54 店舗 (R8)	73 店舗 (R6)	C	A	A
あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)	中心市街地における居住人口(社会増減数)	18 人 (R1)	104 人 (R8)	48 人 (R6)	B	A	B

＜基準値からの改善状況（※1）＞

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「＜基準値からの改善状況（※1）＞」、＜目標達成に関する見通しの分類（※2）＞ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「文化施設等(5施設)利用者数」については、5施設中4施設が昨年度より来館者数が増加しており、新型コロナウイルス感染症流行前の基準値に迫る水準まで回復してきている。しかし、アイホールにおいて令和7年度末で閉館となることが決定するなど不安要素はあるものの、「図書館」において市民と連携したイベントが活発に行われ参加者数が大きく増加していることや、大阪・関西万博関連事業として、「清酒発祥の地伊丹」を五感で体感ツアー等を実施し、「清酒発祥の地伊丹」や「地理的表示(GI伊丹)」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」をPRすることで、市外から中心市街地への誘客を図る等、引き続き各事業を実施し、目標の達成を目指す。

「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」については、中心市街地の4極を結ぶ2軸の結節点である三軒寺前広場を中心に数多くのイベントが開催され、イベント数としては昨年より減少したものの、各エリアとも前年度より流動人口が増加し、日常的に

ぎわい創出に繋げることができた。しかし、新型コロナウイルス感染症流行後の新たな生活様式（在宅勤務、EC利用）の定着等の影響により基準値を下回っており、目標達成が難しい状況となっている。民間主体による新規イベントの企画も活発に行われていることから、引き続き各事業を実施し、流動人口増加のための施策を展開する。

「中心市街地における1階空き店舗数」については、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした閉店等依然影響が大きく、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業も相まって基準値を下回る結果となった。しかし、「創業塾」や「創業支援事業」などの利用者も一定数おり、商工会議所への創業に関する相談も年々増加傾向にある。その結果、中心市街地での営業店舗数も過去最多だった昨年の1,124店には及ばないものの、1,115店となり、中心市街地での営業ニーズは継続して見受けられる。

また、「エリアマネジメント促進事業」では、令和7年度に新たなイベントを実施予定であり、イベント等を通じてエリアの価値向上を図るとともに引き続き各事業を継続し、目標の達成を目指す

「中心市街地における居住人口（社会増減数）」については、本市においても少子高齢化が進む中、市内全体の減少に合わせて中心市街地内も減少に転じた。転入促進・転出抑制を図ることが重要であり、引き続き各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介したPR冊子を刷新し、不動産事業者や各種イベント等での配布を通じて本市の魅力の情報発信を行うことや、子育て世代をターゲットにしたリスティング広告（Google）やSNS広告（LINE）を活用するなど、居住環境の付加価値を高めるための取り組みや本市の魅力発信を行う事業を継続することで、中心市街地における居住人口の増加を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口（4エリア合計）」

令和5年度フォローアップにおいては、事業の進捗が概ね順調であり、目標数値も達成見込みであったことから、Aと見込んでいた。しかし、「いたみ花火大会」や「イタミ朝マルシェ」等、複数のイベントが過去最多クラスの来場者がある中で、流動人口についても新型コロナウイルス感染症流行後では最多となったものの、流行前の水準に戻るほどの回復傾向も見られないことから、（C）と評価した。

「中心市街地における居住人口（社会増減数）」

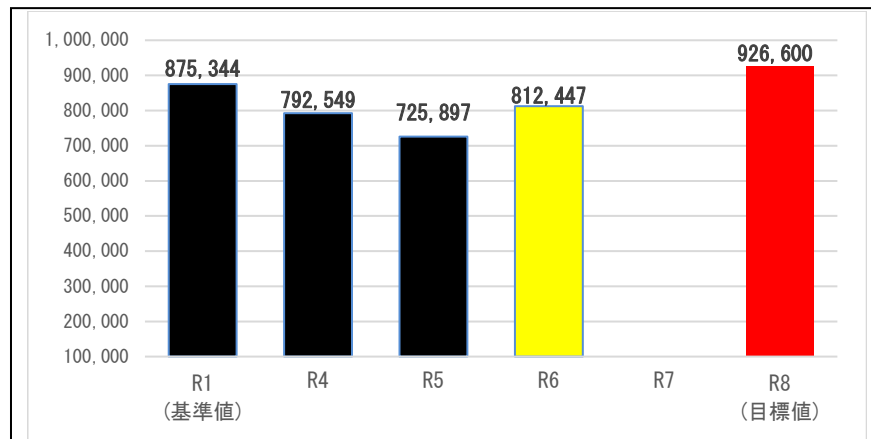
令和5年度フォローアップにおいては、事業の進捗が概ね順調であり、目標数値も達成見込みであったことから、Aと見込んでいた。しかし、令和6年度に市内全体の減少に合わせて中心市街地内の居住人口も前年度比51人減となるなど大幅に減少したため、目標達成が見込まれない（B）と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「文化施設等(5施設)利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 95～P. 97 参照

●調査結果と分析



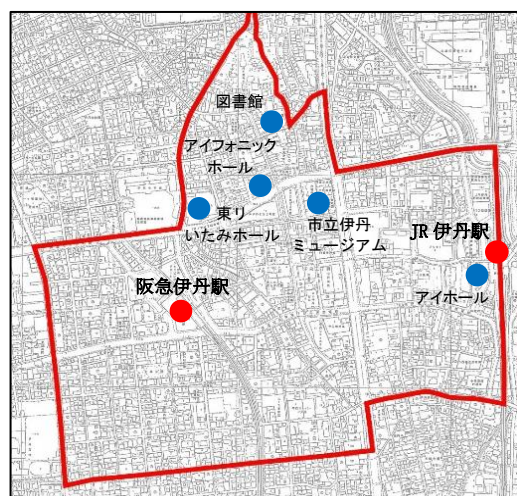
年	(人)
R1	875,344 人 (基準年値)
R4	792,549 人
R5	725,897 人
R6	812,447 人
R7	人
R8	926,600 人 (目標値)

※調査方法：各文化施設利用者及びイベント入場者集計

※調査月：令和6年度(令和7年3月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：各文化施設(市立伊丹ミュージアム、東り いたみホール、
伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館)



(単位：人)

施設名	R1 (基準年)	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
市立伊丹ミュージアム	※131,164	225,238	129,284	172,944		
東りいたみホール	194,430	153,522	151,395	168,013		
伊丹アイフォニックホール	105,570	82,421	92,579	89,645		
アイホール	39,549	35,464	34,518	35,156		
図書館	404,631	291,271	313,086	341,972		
イベント等	—	4,633	5,035	4,717		
合計	875,344	792,549	725,897	812,447		

※R1 は、みやのまえ文化の郷(美術館・工芸センター・郷町館・柿衛文庫)＋博物館の人数。

〈分析内容〉

昨年度から引き続き、各文化施設におけるイベントや貸館事業を実施した。

「市立伊丹ミュージアム」では、絵本や漫画など人気の高い展示会等を実施したため、令和6年度は昨年度と比較して来館者数は大きく増加した。「東りいたみホール」「伊丹アイフォニックホール」「アイホール」「図書館」では、新型コロナウイルス感染症流行前の水準には戻っていないが、魅力的なコンサートや講演・講座等の実施により「東りいたみホール」「アイホール」「図書館」では、昨年度より来館者数が増加しており、文化施設全体としては、回復傾向にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	令和4年4月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,500人増(R4～R8) 最新値：41,780人増(R4～R6) 令和6年度は集客性の高い展覧会を開催し、その効果もあって展覧会観覧者数は82,710人となり、オープン初年度よりは少ないものの昨年度より大幅増となった。また、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」の開催数も前年60回から106回に増え、5,268人が利用するなど認知度もさらに高まってきた。これに加え、旧岡田家住宅・酒蔵および旧石橋家住宅の見学者や貸室利用者も増加傾向にあり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も市立伊丹ミュージアムの魅力をアピールし新規来館者増に繋がる展示事業を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを充実させ、当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

②. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来㈱、伊丹市)

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,100 人増(R4～R8) 最新値：1,712 人増(R4～R6) 令和6年度も、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」を引き続き実施し、アンケート回答者数は前年度の 1,415 件から 1,712 件と大幅に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き 9 月に 10 日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などから、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや暗くなったホールで、懐中電灯を持って夜行性昆虫たちを観察する「むしむし☆ナイトフィーバー」等の体験イベントなど、関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄っトク！itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで来館者増を目指す。

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：400 人増(R4～R8) 最新値：230 人増(R4～R6) 大型商業施設と連携し「清酒発祥の地 伊丹」や「日本遺産」の関連施設を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、伊丹の酒造りや、日本遺産を知る機会を創出し、合計 70 名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産を PR するための「のぼり」や横断幕を継続して設置した。加えて、JR 伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は 1,942 杯提供され、試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約 2 倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本遺産 PR 動画の放映や日本酒の利き酒イベントには 100 名の参加、菰樽作りの実演には延べ 60 名程度の方が見学するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産リーフレットや観光パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なる PR を

	はじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。また、大阪・関西万博関連事業として、「清酒発祥の地伊丹」を五感で体感ツアーを実施し、「清酒発祥の地」や「日本遺産」ストーリーの理解を深めていただく他、万博会場や兵庫県立美術館で「清酒発祥の地 伊丹」や「地理的表示（GI 伊丹）」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」を PR することで、市外から中心市街地への誘客を図る。
--	---

④. 体験型周遊イベント事業（伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹市など）

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の歴史資源・文化施設や商店街等を巡る体験型イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：6,240 人増(R4～R8) 最新値：0 人増(R4～R6) 令和6年度は、中心市街地内の店舗を巡る「いたみハロウィンツアー」や、中心市街地内の店舗や公共施設等を巡り職業体験を行う「はたら子」のほか「リアル謎解きゲーム」等、民間が主体となった各種体験型イベントが実施され、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、民間が主体となった各イベントと PR 等の連携を行うことで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑤. 図書館連携事業（伊丹市）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,000 人増(R4～R8) 最新値：134 人増(R4～R6) 令和 6 年度は、年間延べ 341,972 人が図書館に来館した。図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて 237 件（参加人数：7,240 名）が開催され、前年のイベント数 202 件、参加人数 5,459 人と比較して大きく参加者数が増加した。特にコンサートや専門家の講演会など、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を積極的に実施し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加

て

しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

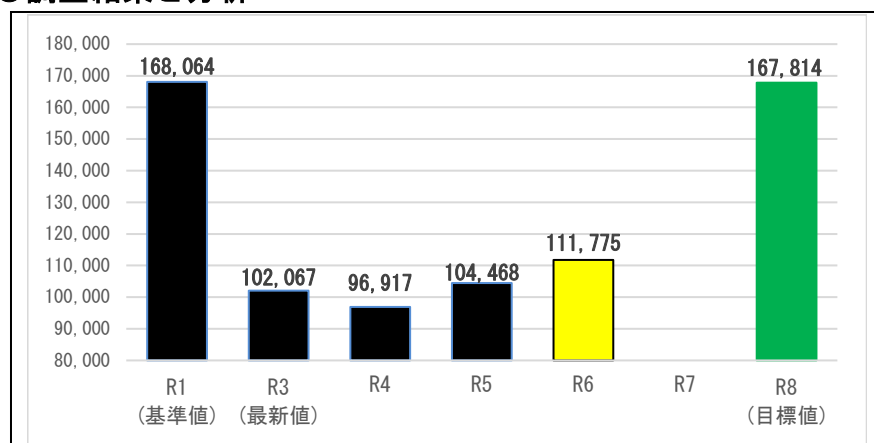
未だ利用者数について新型コロナウイルス感染症流行前の水準には戻っていないものの、主要事業は概ね順調に進捗している。

今後は、各文化施設でのさらなる来館者増加を目指すため、各イベントについてより魅力ある内容となるための創意工夫を行うとともに、「市立伊丹ミュージアム」を中心として様々な企画を展開していく。また、既存事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」や日本遺産関連事業を強化していくこと等を通じて、中心市街地全体の回遊性向上も目指す。

（２）「中心市街地４エリアにおける１日あたりの流動人口（４エリア合計）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 98～P. 105 参照

●調査結果と分析



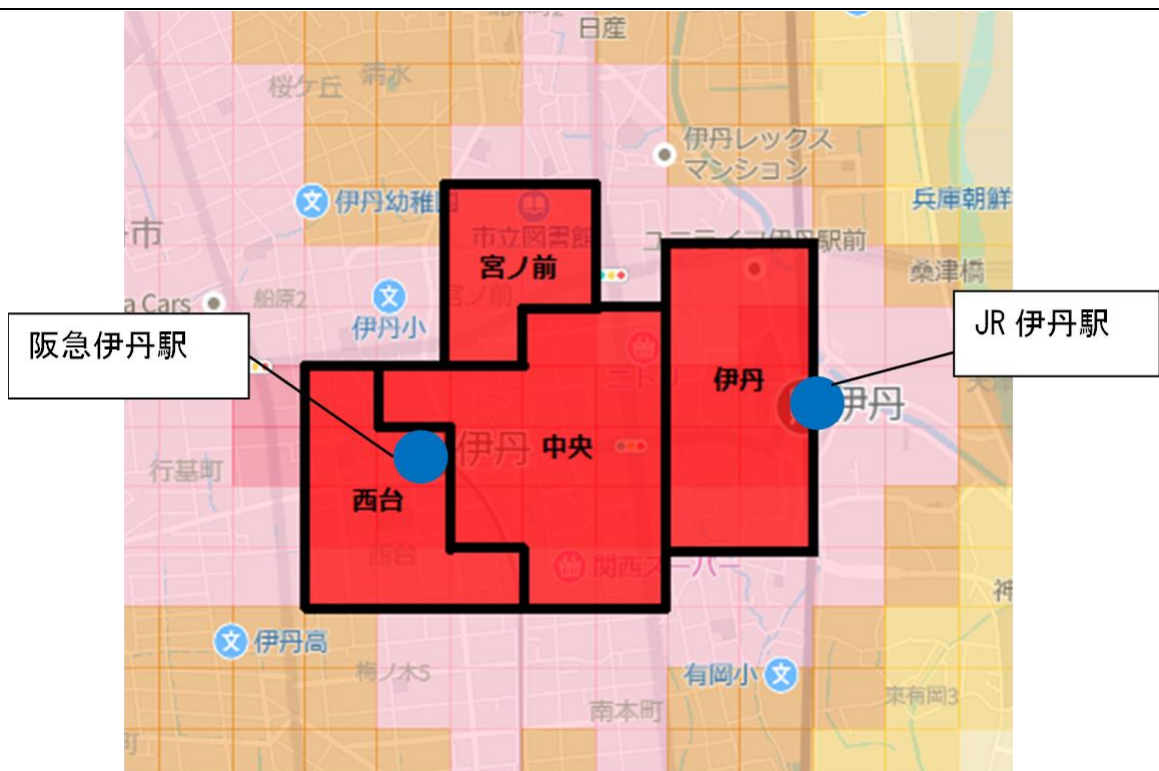
年	(人)
R1	168,064 人 (基準値)
R3	102,067 人
R4	96,917 人
R5	104,468 人
R6	111,775 人
R7	人
R8	167,814 人 (目標値)

※調査方法：「DS. INSIGHT」を使い、中心市街地内で一定時間（2 分以上）滞在する住民と来訪者の延べ人数。

※調査月：令和 6 年度（令和 7 年 3 月末）

※調査主体：伊丹市

※調査対象：「DS. INSIGHT」で設定可能な最小 125m 四方のメッシュを組み合わせ、本計画の計画区域を超えない範囲で形成した「伊丹」、「宮ノ前」、「中央」、「西台」の 4 エリア



(単位：人)

年度	月	エリア別 1 日あたり流動人口（平均値）				4 エリア合計
		伊丹	宮ノ前	中央	西台	
R1	10～12	44,170	27,554	56,136	40,204	(基準値) 168,064
	1～3	40,420	23,220	53,333	39,173	(参考値) 156,146
R2	4～3	29,842	17,424	40,426	29,858	(参考値) 117,550
R3	4～11	25,681	15,289	34,684	26,413	102,067
R4 (1 年目)	4～3	25,519	13,248	32,917	25,233	96,917
R5 (2 年目)	4～3	27,319	14,488	35,354	27,307	104,468
R6 (3 年目)	4～3	29,473	15,585	37,726	28,990	111,775
R7 (4 年目)	4～3					
R8 (5 年目)	4～3					

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症流行前の水準には未だに戻らないものの、流行後の流動人口としては最多となり一定回復基調にある。本市を代表するイベントである「伊丹まちなかバル」を春と秋の年 2 回開催し、計 14,300 人の参加者が中心市街地を訪れた。さらには、中心市街地の 4 極 2 軸の結節点である三軒寺前広場では、「イタミ朝マルシェ」も定期的に行われ、さらには「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」や「伊丹郷町屋台村」が開催されたほか、本やダンス・スポーツ・国際文化などをテーマとした各種イベントやこども向けイベント、官公庁主導の

周知啓発イベント等、延べ 64 日間三軒寺前広場が活用された。

また、本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」も開催され、音楽連動花火によるフィナーレや露店の出店とともに、初めて有料観覧席を設定した。有料観覧席は完売し、来場者数は、約 70,000 人となり、会場近くの中心市街地における回遊も促進された。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 三軒寺前広場活用イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	三軒寺前広場でマルシェイベント、元気をテーマにしたイベント等を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,187 人増(R4～R8) 最新値：1,923 人増(R4～R6) 令和 6 年度は、毎月 1 回日曜日に実施する「イタミ朝マルシェ」を 11 回開催(雨天中止 1 回)し、過去最高となる延べ 10,487 人が参加した。大型商業施設と連携したスタンプラリーを行い朝マルシェ会場に誘客できたことも一因かと考えられる。12 月には 4,700 人が参加した「クリスマスマーケット」を開催し、2 月の白雪蔵まつりと同時開催の「いたみ冬の元気まつり」には 5,000 人が参加した。その他、民間事業者が主体となって、スポーツや国際文化等をテーマとしたイベントやこども向けのイベントも開催され、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、三軒寺前広場を活用したマルシェ形式のイベントを継続的に実施しつつ、民間主体イベントの積極的な開催を促しながらさらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

②. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	令和 4 年 4 月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：13,760 人増(R4～R8) 最新値：849 人減(R4～R6) 令和 6 年度は集客性の高い展覧会を開催し、その効果もあって展覧会観覧者数は 82,710 人となり、オープン初年度よりは少ないものの昨年度より大幅増となった。また、市立伊丹ミュージアム内

	の旧石橋家住宅（町屋）カウンターに市内の民間事業者や団体が出店・出展を行う連携事業「郷町〇店」の開催数も前年 60 回から 106 回に増え、5,268 人が利用するなど認知度もさらに高まってきた。これに加え、旧岡田家住宅・酒蔵および旧石橋家住宅の見学者や貸室利用者も増加傾向にあり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も市立伊丹ミュージアムの魅力をアピールし新規来館者増に繋がる展示事業を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを充実させ、当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

③. 日本遺産連携事業（伊丹市）

※再掲

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：3,333 人増（R4～R8） 最新値：3,671 人増（R4～R6） 大型商業施設と連携し「清酒発祥の地 伊丹」や「日本遺産」の関連施設を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、伊丹の酒造りや、日本遺産を知る機会を創出し、合計 70 名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産を PR するための「のぼり」や横断幕を継続して設置した。加えて、JR 伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は 1,942 杯提供され、試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約 2 倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本遺産 PR 動画の放映や日本酒の利き酒イベントには 100 名の参加、菰樽作りの実演には延べ 60 名程度の方が見学するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産リーフレットや観光パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なる PR をはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。また、大阪・関西万博関連事業として、「清酒発祥の地伊丹」を五感で体感ツアーを実施し、「清酒発祥の地」や「日本遺産」ストーリーの理解を深めていただく他、万博会場や兵庫県立美術館で「清酒発祥の地 伊丹」や「地理的表示（GI 伊丹）」、ユネスコ無

	形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」をPRすることで、市外から中心市街地への誘客を図る。
--	---

④. 公共交通を活用した中心市街地誘客事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	大阪国際空港(伊丹空港)と中心市街地とを結ぶ「空港アクセスバス」の利便性PRや中心市街地内でのイベント、各店舗との連携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中心市街地と伊丹空港を結ぶ25系統便は、ラッピング車両等で運行しており、令和6年度は、乗車人数が昨年より増加し、年間526,525人が乗車した。また、「空港アクセスバス」のラッピング車両は、市内の各路線を走行しており、市民をはじめ多くの人に「空港アクセスバス」の利便性PRを行った。 加えて、5月及び10月に計2回、中心市街地内で開催した「伊丹まちなかバル」において、100円の特別割引乗車券を発行し、851人が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後、大阪国際空港(伊丹空港)の利用者数の増加にあわせて「空港アクセスバス」の利用者も増加することが想定されることから、さらなる利便性PRを行うとともに、中心市街地内でのイベントや、交通局が取り組む中心市街地をはじめとした市内の店舗との連携事業も継続することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑤. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来㈱、伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。

	令和6年度も、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！ itami」を引き続き実施し、アンケート回答者数は前年度の 1,415 件から 1,712 件と大幅に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き 9 月に 10 日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などから、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや暗くなったホールで、懐中電灯を持って夜行性昆虫たちを観察する「むしむし☆ナイトフィーバー」等の体験イベントなど、関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄っトク！ itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで来館者増を目指す。

⑥. 図書館連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は、年間延べ 341,972 人が図書館に来館した。図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて 237 件(参加人数：7,240 名)が開催され、前年のイベント数 202 件、参加人数 5,459 人と比較して大きく参加者数が増加した。特にコンサートや専門家の講演会など、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を積極的に実施し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

⑦. いたみ花火大会の開催(いたみ花火大会実行委員会、伊丹市)

事業実施期間	昭和 56 年度～【実施中】
--------	----------------

事業概要	中心市街地隣接地域で花火大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和６年度は、中心市街地の東側に隣接する猪名川河川敷で８月に夏の風物詩である花火大会を開催し、約 70,000 人の集客があった。今回の花火大会では、音楽連動花火によるフィナーレや露店出店に加え、初めての取り組みとなる有料観覧席の設置を行った。JR 伊丹駅に隣接する大型商業施設をはじめ、中心市街地内の飲食店等も多くの人々が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、中心市街地全体の賑わい創出のため、飲食店等におけるさらなる売り上げ増加に繋げる取り組みを通じて、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑧. まちなか大規模イベントの開催(商店街、民間事業者、伊丹市など)

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	四季おりおりの大規模イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和６年度は、夏には伊丹小学校で「伊丹ふれあい夏まつり」が、金剛院においては「愛染まつり」が開催された。秋には「宮前まつり」(10,000 人参加)、冬には「白雪蔵まつり」(13,000 人参加)、が行われるなど、四季折々のイベントが開催され中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も引き続き、中心市街地内における大規模イベントを開催し、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑨. 伊丹まちなかバルの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(春・秋)定期的に中心市街地内の飲食店を中心に食べ歩き飲み歩きイベントを開催する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は 5 月の春バル及び 10 月の秋バルを開催した。春バルは、74 店舗（初参加 6 店舗）が参加し、提供食数は 14,027 食となった。また、秋バルは、59 店舗（初参加 3 店舗）が参加し、当日の悪天候の影響もあり提供食数は 10,776 食となった。31 回目の開催となったが、初めての試みとなる平日 4 日間も含めた 5 日間開催を実施した結果、参加店アンケートによると参加店の 64% が通常の平日より来店者数が増えたと回答し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。 その他、本部がある三軒寺前広場には協賛企業のイベントブースをはじめ、「阪神間日本遺産推進協議会」による PR ブースも出展され、伊丹の日本酒の無料試飲やおおぞら講座も行われるなど日本遺産の周知・啓発が行われた。
事業の今後について	今後も、イベント規模を維持しながらバルを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑩. 伊丹郷町屋台村の開催（伊丹郷町商業会）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回（夏・冬）定期的に三軒寺前広場で屋台での飲食イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 3 年度から年 2 回を年 1 回、開催日数を 3 日から 2 日へと変更して、令和 6 年度は 10 月 5 日、6 日に開催した。両日とも商業会に加盟する飲食店の屋台をはじめ、ステージでは歌やダンスなどが行われ、来場者数は 10,000 人となり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、伊丹郷町屋台村を継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑪. アリフリ事業の開催(アリオ名店会)

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	商店街主催のフリーマーケットを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度は4月と10月に JR 伊丹駅近くの有岡城跡史跡公園にて「アリオ de ハンドメイド&フリーマーケット」を開催し、フリーマーケットのほか、カリヨンの生演奏やスタンプラリー、ハロウィンビンゴ大会、ハンドメイドのワークショップ等が行われ、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、アリフリを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑫. 日本酒の日記念イベントの開催(伊丹酒造組合、伊丹市など)

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	清酒発祥の地 PR のため日本酒の日イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 例年、10月1日の「日本酒の日」に中心市街地において清酒をPRするイベントを開催しており、令和6年度は、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵駐車場において、伊丹酒造組合蔵元の4銘柄のきき酒セット等の販売をはじめ、鏡開きも行われた。先着100人にはオリジナル木杓のプレゼント企画では、整理券配布時間の前に定員に達するなど好評で、鏡開きの後に行われた振舞い酒にも長蛇の列が出来るなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、清酒をPRするイベントを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑬. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に14階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促

	進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 西台3丁目に14階建て83戸の分譲マンションが令和4年7月に建ち、間取りも1LDK～4LDKと単身からファミリー層が購入可能な物件で完売となるなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑭. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中央4丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑮. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～令和5年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。

国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 西台5丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所が令和5年4月にオープンし、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

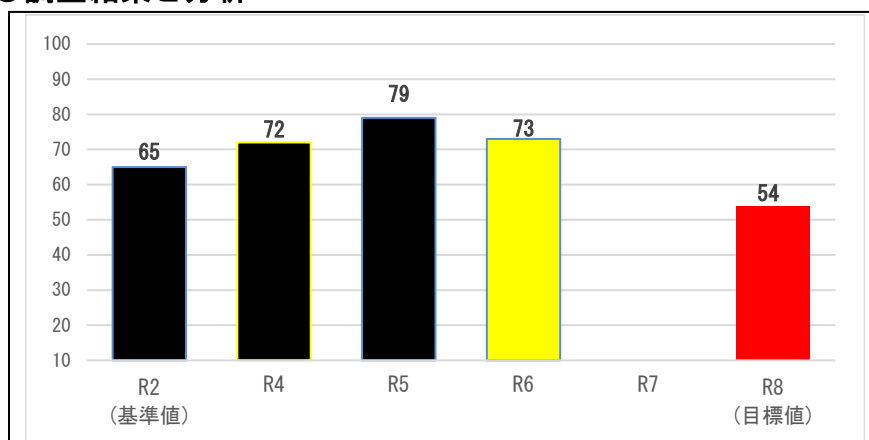
主要事業は概ね順調に進捗しており、中心市街地内の流動人口は昨年度を上回り新型コロナウイルス感染症流行後としては最多の111,775人であった。今後は、流動人口をさらに増加させるため、三軒寺前広場をはじめとした中心市街地内での様々なイベントについて継続して実施していくとともに、民間団体が主催するイベントとも連携、協力して、回遊性向上や来街機会の増加に寄与する事業に取り組んでいく。

令和6年度は民間分譲マンションや認可保育所の建設・開設はなかったが、中心市街地内の他の民間分譲マンションや認可保育所等の建設・開設動向を注視しつつ、庁内の関係部署と連携しながら、流動人口の増加を目指していく。

(3)「中心市街地における1階の空き店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画P.106～P.107参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R2	65 店舗 (基準年値)
R4	72 店舗
R5	79 店舗
R6	73 店舗
R7	店舗
R8	54 店舗 (目標値)

※調査方法：中心市街地内を現地確認(視認ならびに近隣への聞き取り)

※調査月：令和6年度(令和6年10月～11月)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：中心市街地

(単位：店舗)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7	6		
	伊丹	12	10	9	10	14		
	中央	70	74	73	74	74		
	西台	40	43	55	51	53		
	計	129	134	144	142	147		
1階空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7	6		
	伊丹	10	7	7	9	11		
	中央	33	32	36	40	40		
	西台	15	20	22	23	16		
	計	65	66	72	79	73		

〈分析内容〉

「中心市街地の1階空き店舗数」については、基準年より8店舗増加したものの令和6年度には前年より減少し、73店舗となった。「中心市街地の空き店舗数」全体では147店舗となり前年より5店舗増加した。

エリア別にみると、宮ノ前は基準年から▲1店舗減の6店舗(割合：10.8%→8.2%)、伊丹は基準年から+1店舗増の11店舗(割合：15.4%→15.1%)、中央は基準年から+7店舗の40店舗(割合：50.8%→54.8%)、西台は基準年から+1店舗の16店舗(割合：23.1%→21.9%)と、中央が一番多く、増加割合でも中央が一番となった。

また、令和6年度の空き店舗を業種別にみると、物販が26店舗(宮ノ前5店舗、伊丹5店舗、中央14店舗、西台2店舗)と一番多く、次いで飲食21店舗(宮ノ前1店舗、伊丹1店舗、中央13店舗、西台6店舗)、サービス18店舗(宮ノ前0店舗、伊丹4店舗、中央10店舗、西台4店舗)、その他8店舗となった。

1階の空き店舗増加の要因としては、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした閉店等依然影響が大きく、国・県・本市による様々な事業者支援を行ってきたものの、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業も相まって増加したものと考えられる。

一方で、昨年空き店舗であった1階部分について、新たに19店舗が出店されており、昨年度から新規出店数が5店舗増加した。中心市街地内の営業店舗としては昨年度より9店舗減少したが、商工会議所への創業に関する相談も年々増加傾向にあり、中心市街地での新規出店意欲は継続して見受けられる。

引き続き「商店街等活性化補助事業」を通じて各商店街への誘客を促進するとともに、「創業塾」や「創業支援事業」を通して新たな商売の担い手を育成し、「エリアマネジメント促進事業」によって、エリアの価値向上を図ることで、中心市街地における1階空き店舗の解消に取り組む。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 創業支援事業(伊丹市)

事業実施期間	令和３年度～【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめ、市内における新規創業に対し、店舗等の賃借料の一部を補助し、創業者の負担を軽減する等の支援を予算の範囲内において行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和４年度～令和８年度) ※中心市街地活性化ソフト事業の支援対象は、中心市街地区域内で実施する分のみ。
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：１５件減少(R4～R8) 最新値：３件減少(R4～R6) 令和６年度は、市全域で３１店舗を支援したが、中心市街地内で８店舗が新規に創業し、昨年度の１０店舗創業から減少したが、高い数字を維持している。８店舗のうち１階の出店はなかったが、中心市街地における空き店舗数の解消に寄与した。
事業の今後について	当該事業を継続し、創業希望者・新規出店者への効果的な情報提供を行いながら、引き続き中心市街地における１階の空き店舗解消を目指す。

②. エリアマネジメント促進事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹まち未来(株)、伊丹市、伊丹商工会議所、商業者組織など)

事業実施期間	令和４年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで、各エリアの価値向上につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業(経済産業省) (令和４年度～令和８年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：２件減少(R4～R8) 最新値：０件減少(R4～R6) 令和６年度は、道路等の公共空間を活用した各エリア価値向上に資する取組みについて協議・検討を行い、令和７年秋頃に西台エリアの道路等をランタン等で照らすイルミネーションイベントを実施予定。イベントを実施することで日常的なにぎわいに繋げ、エリアの価値向上に努める。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における１階の空き店舗解消を目指す。

③. 空き店舗情報バンク・マッチング事業(伊丹市、伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和３年度～【実施中】
--------	-------------

事業概要	中心市街地内の空き店舗情報を一元化し、出店を検討している者に空き店舗や制度をに関する情報を提供するための発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：5 件減少(R4～R8) 最新値：1 件減少(R4～R6) 令和6年度においては、空き店舗情報の掲載依頼はなかった。
事業の今後について	引き続き宅建協会をはじめ、本市の不動産事業者への案内を通じて、中心市街地内の空き店舗の掲載を行っていくとともに、本市独自の支援制度の案内もあわせて行えるようにホームページの充実を図ることで、中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

④. 商店街等活性化補助事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	活性化を推進しようとする市内の商店街等イベント等のソフト事業の実施に要する費用の一部を補助することにより、市内商業の振興発展を図り、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1 階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度は、市内 17 商店会組織のうち 11 商店会に補助を行い、中心市街地内は9商店会であった。商店会が行う「伊丹郷町屋台村」等、歳末セールや抽選会等の活性化イベント、商店街等 PR などへ補助することで、中心市街地内の魅力向上が図られ、中心市街地における 1 階の空き店舗解消に寄与した。
事業の今後について	今後も、商店会組織が独自で行う活性化イベント、商店街等 PR への支援を継続的に行い、さらなる中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

⑤. チャレンジショップの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街などの空き店舗、空きスペースなどを利用して、起業を考えている方等に情報提供し、安い家賃で一定期間試験的に貸し出すことで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1 階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度は、民間において中心市街地内の1 階部分の空き店舗を週・日単位で起業希望者へ貸し出す取り組みが行われるなど、創業の促進が図られた。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における1 階の空き店舗解消を目指す。

⑥. 創業塾の開催（伊丹商工会議所、伊丹市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	創業準備中の方や、将来、起業を考えている方誰もが参加できる創業塾や、女性だけを対象にした女性創業塾を開催し、開業に向けてサポートし、商業の担い手を育成することで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－創業相談も増えている ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1 階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度は、創業塾に17人、女性創業塾に16人が受講され、創業の促進が図られた。
事業の今後について	今後は、継続して創業塾を開催するとともに、当該創業塾参加者が中心市街地において実際に創業したかどうかの追跡調査等も行いながら、さらなる中心市街地における1 階の空き店舗解消を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

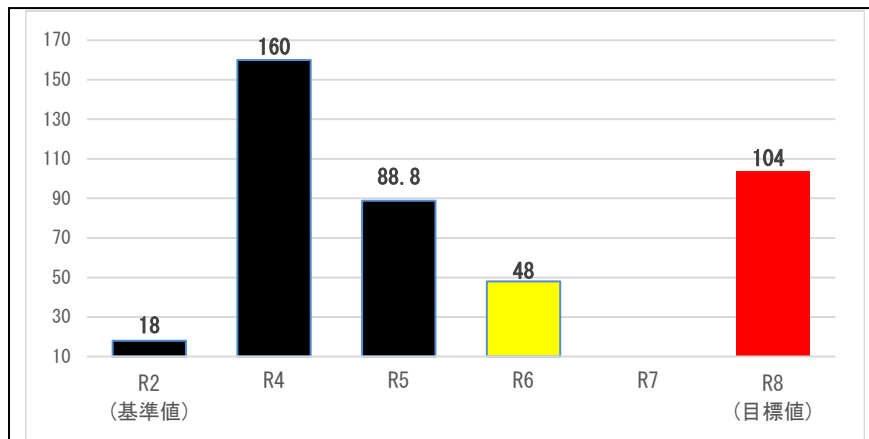
中心市街地全体では空き店舗数は増加し、営業店舗も減少したが、主要事業は概ね順調に進捗し、中心市街地における1 階の空き店舗数も減少に転じ、中心市街地での新規出店が継続して見受けられる状況にある。

今後も引き続き、エリアの価値向上に資する事業に取り組むとともに、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における1 階の空き店舗解消を目指す。

（４）「中心市街地における居住人口（社会増減数）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.108～P.109 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
R2	平均 18 人/年 (基準年値)
R4	平均 160 人/年
R5	平均 88.8 人/年
R6	平均 48 人/年
R7	平均 人/年
R8	平均 104 人/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データ＋国勢調査推計人口(補完的)

※調査月：令和6年(令和7年1月)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：中心市街地

(単位：人/年)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
実績値	転入(a)	633.8 ※531.1	527	697	603	535		
	転出(b)	512.8	601	555	604	587		
	社会増減 (a-b)	121.0 ※18.3	▲74	142	▲1	▲52		

※基準年である R2 は、H29～R2 までのマンション開発の影響を勘案した値を採用。

マンション開発戸数×1戸当たり 2.36 人/世帯(伊丹市平均世帯人員)として算出。

〈分析内容〉

令和6年度において会増減数は▲52 となり、市内全体の減少に合わせて中心市街地内も減少している。各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で子育て世代をターゲットにしたリスティング広告(Google)やSNS 広告(LINE)を活用し本市の魅力発信を行うことや、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供する「地域子育て拠点支援事業」など、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを継続することで、中心市街地における居住人口の増加を目指す。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

※再掲

事業実施期間	令和4年度【済】
--------	----------

事業概要	区域内の商業地域に 14 階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：196 人増(R4～R8) 最新値：196 人増 西台3丁目に 14 階建て 83 戸の分譲マンションが令和4年7月に建ち、間取りも 1LDK～4LDK と単身からファミリー層が購入可能な物件であり完売となったことから、本市の平均世帯人員 2.36 人を掛け合わせると、目標値としていた 196 人の中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	当該事業は当初の目標値を達成した。今後は、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

②. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8)※ 最新値：85 人増(R4)(伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園2保育園の合算値) 中央4丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れや毎年の入園人員状況等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

③. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～令和5年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居

	住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85人増(R4～R8)※ 最新値：85人増(R4)(伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園2保育園の合算値) 西台5丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所を令和5年4月にオープンし、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所のオープンや定員割れ、毎年の入園人員等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

④. 公衆トイレ改修事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる中心市街地内の2カ所の公衆トイレについて、バリアフリー設備など誰もが使いやすい機能の充実、改修等を行うことで、歩きやすく快適な都市空間の創出や中心市街地内での回遊性を高め、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：— ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度はJR伊丹駅、阪急伊丹駅前の公衆トイレについて、引き続き適切な維持管理を実施するとともに、中心市街地内の公衆トイレの在り方について、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく中長期的な視点で検討することとした。
事業の今後について	引き続き適切な維持管理を実施するとともに、中心市街地内の公衆トイレの在り方について、中長期的な視点で住環境向上に資する事業の検討を行い、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑤. 地域子育て支援拠点事業(伊丹市)

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、親子で気軽に集い、遊びや子育て家庭の相互交流を促進し、子育て家庭と地域をつなぐ場として機能させ、地域ぐるみで子

	育てを応援する体制を整える。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金(内閣府)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 「いたみむっくむっくルーム」では、0～3歳児の子どもと保護者（市内在住・在勤）が気軽に利用できる親と子の育ちの場として、令和6年度は、昨年から1,381人増の年間11,360人の利用があり、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、利用人数の増加に向けたPR等の取り組みなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑥. シティプロモーション事業(伊丹市)

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	対象を子育て世代に特化した「住みたいまち伊丹」、清酒文化を伝える「清酒発祥の地 伊丹」など、ターゲットを絞った、戦略的なシティプロモーションを推進することにより、「まちの魅力」を「戦略的・効果的に」発信し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和6年度は、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介している新PR冊子「イイ！いたみ」を5,000部発行し、市外からの来訪者の多い大型商業施設や公共施設、不動産事業者等、さらには市内外でのイベント等で配布した。 また、本市への来訪のきっかけ作りとして伊丹大使を活用した事業を実施した他、本市の魅力を市内外へ情報発信するとともに、引っ越し検討者で近隣市に居住している主に20代～30代の子育て層をターゲットに本市の魅力を発信するために、リスティング広告（Google）とSNS広告（LINE）を活用し本市シティプロモーションサイト「未来へつなぐまち伊丹」への誘引を図ることを目的とした事業を進めた。 その他、「清酒発祥の地 伊丹」のPRについては、令和2年6

	月に認定を受けた日本遺産の認知度向上及び観光客誘致に向けた動画による情報発信やイベント等を通じて行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、中心市街地をはじめとした本市への移住・定住に向け、様々な媒体を活用したシティプロモーション活動を継続して取り組むなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑦. 男女共同参画センター事業(伊丹市、NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	男女共同参画の拠点施設「男女共同参画センターここいろ」において、市民活動・交流の支援事業や各種相談、啓発事業、情報提供を行い、性別にかかわらず全ての人が安心して地域社会で生き生きと暮らせるまちの実現を目指し、来街者の増加及びまちの定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は、男女共同参画に関するさまざまな講座やイベントを 63 件開催し、811 人の参加があった。また、女性のためのカウンセリングや就職・起業・資格取得への相談、男性のための悩み相談などを行い、544 人の相談があった。 その他、女性や男女共同参画に関する図書の見学や貸し出しを行うとともに、男女共同参画社会づくりを目指すグループや団体・個人の活動する場所や情報等を提供するなどの、市民活動支援も行っており、現在 4 団体の登録があり、施設内外で様々な取り組みを行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、中心市街地をはじめとした本市の男女共同参画の拠点として、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑧. まちなみ景観整備促進事業(伊丹市)

事業実施期間	昭和 59 年度～【実施中】
事業概要	兵庫県的一般市で初めて景観条例を制定した本市では、景観条例に基づいた落ち着いたまちなみ景観を形成することで、交流人口の増

	加及び来街者の回遊性を向上させることにより、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は、景観法並びに景観条例に基づき、中心市街地内に設定された特定のエリア（景観計画区域）における建築物の新築等に係る届出件数はなかったものの、引き続き中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	前計画期間中と同様に、年度によって当該助成・届出件数に差があるものの、引き続きまちなみ景観の形成を図るための、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑨. 安全・安心見守りカメラ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	全国で発生した子どもが被害者となる事件や、平成 26 年に市内で発生した局地的豪雨被害等から、安全・安心見守りカメラを平成 27 年度より順次設置し、犯罪への抑止力や事件・事故の早期解決等多目的に利用してきた。中心市街地に 45 台設置されたカメラをはじめ、市内 1,200 台の更新等を行うことで、安全・安心なまちづくりを推進し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は、これまで市民や関係機関から寄せられた意見等を勘案しながら、事業者との更新や配置場所等について協議を進めるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	機器の耐用年数が経過したため、令和 6 年度から令和 7 年度にかけて安全・安心見守りカメラを一斉に更新することで、これまでと同様に、犯罪の抑止、事件・事故の早期解決等を図るなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の

	増加(社会増)を目指す。
⑩. まちなかミマモルメ整備事業(伊丹市)	
事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	安全・安心見守りカメラとあわせ、ビーコン受信器を整備し、ビーコン発信器を持った子どもの登下校や認知症高齢者の徘徊等の位置情報を、家族や保護者のスマートフォン等に通知するサービスを行うことで、安全・安心なまちづくりを推進することで中心市街地の定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 6 年度は、市内に 1,352 台設置したビーコン受信機による位置情報通知サービスを行ってきた。 また、さらなる利用促進のため、小学校 1 年生を対象に無料キャンペーンを実施し、さらには認知症高齢者、障がい者（児）についても要件を一定クリアすれば無料で利用できるなど、現在 6,023 人が利用している。 特に、子どもや認知症高齢者等が行方不明になり捜索が必要な場合に、捜索に協力するボランティア市民も昨年より約 150 人増の 2,825 人になり、行方不明者の捜査を行うなどの、地域ぐるみの見守り体制が構築されていることから、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与している。
事業の今後について	今後も、「まちなかミマモルメ」のさらなる普及のため、ビーコン受信機の設置・更新や利用者拡大を計画的に進めるなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
●目標達成の見通し及び今後の対策 主要事業は概ね順調に進捗しており、今後も居住環境の向上に資する「まちなみ景観整備促進事業」「安全・安心見守りカメラ整備事業」「まちなかミマモルメ整備事業」、などのハード整備を計画的に取り組む。また、「シティプロモーション事業」では、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介した PR 冊子を刷新し、不動産事業者や各種イベント等での配布を通じて本市の魅力の情報発信を行うとともに、特に近隣市に居住している子育て世代をターゲットに、リスティング広告（Google）と SNS 広告（LINE）を活用するなど、本市、中心市街地の魅力を発信し続け、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」や「いたみむっくむっくルーム」における様々な取り組みを通じて、居住環境の付加価値を高め、さら	

なる中心市街地における居住人口の増加（社会増）を目指していく。